

研究活動



「戦争災害研究室」を中心に、空襲や被災体験の記録を収集・整理して分析することや空爆をめぐる論考の検討など、さまざまな研究活動を続けています。研究会やシンポジウムも開催しシンポジウムや資料研究の成果を報告書として発表しています。

出版・編集

近年、出版社から刊行される書籍の編集・執筆を担当する機会が増えてきました。また、独自に小冊子を編纂して出版しています。当時を偲んで歩くためのガイドブック『戦災資料センターから東京大空襲を歩く』が好評で、これを手にゆかりのある場所を訪れる方も多くいらっしゃいます。



イベントと交流

毎年3月10日前後に、ゲストによる講演や若い世代の活動を紹介する「東京大空襲を語り継ぐつどい」を開催。平和を願う多くの方々に参加いただいています。このほか、夏の「特別企画」や



5月5日の「世界の子どものための平和像」記念の集い、写真展・絵画展などの「特別展」を開催し、地元江東地域をはじめ、市民のみなさんとの交流を深めています。

維持会員・維持募金

当センターは、多くのみなさんからの募金によって維持・運営されています。維持会員(年会費個人:1口2,000円、団体・法人:1口10,000円。1口から何口でも)になってくださった方には、年2回発行の機関誌『戦災資料センターニュース』をお届けするとともに、入館協力費が無料になります。郵便振替口座:「00170-6-123225」、加入者名:「東京大空襲・戦災資料センター」までお願いします。



交通案内

- ▼JR「秋葉原駅」中央改札口を出て左の2番バス乗り場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で35分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼JR「錦糸町駅」南口3番バス乗り場から、都バス《東陽町行き/東京駅丸の内北口行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分
- ▼東京メトロ東西線「東陽町駅」四つ目通り側5番乗り場から、都バス《錦糸町行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分
- ▼JR・東武「亀戸駅」2番バス乗り場から、都バス《なぎさニュータウン行き/西葛西駅前行き》(亀29)で「北砂3丁目」下車、徒歩7分
- ▼東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」3番バス乗り場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼東京メトロ東西線「葛西駅」4番バス乗り場から、都バス《秋葉原駅行き》(秋26)で20分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼都営地下鉄新宿線「住吉駅A4出口」、または「西大島駅A1出口」から、徒歩20分
- ▼東京メトロ半蔵門線「住吉駅B1出口」から、徒歩18分

※清洲橋通りの「岩井橋東詰交差点」、岩井橋クリニックの隣りです



東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4
Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326
Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>
維持募金郵便振替口座: 00170-6-123225



未来へと語り継ぐ戦争の惨禍と、平和への願い

東京大空襲・戦災資料センター

The Center of the Tokyo Raids and War Damage

館長 早乙女勝元

公益財団法人 政治経済研究所



東京大空襲・戦災資料センター

1945年9月、戦災資料センター周辺の航空写真(米軍撮影)

いのちと平和のバトンを、未来にきちんと受け渡すために

1945年（昭和20年）3月10日の未明、約300機のアメリカ軍爆撃機B29による東京下町地区を目標にした無差別爆撃で、人口過密地帯は火炎地獄と化し、罹災者は100万人をこえて、推定10万人もの尊い命が失われました。3月10日を含め、東京は100回以上もの空襲を受けて、市街地の5割を焼失したのです。

「東京空襲を記録する会」は1970年より、この空襲・戦災の文献や物品を広く収集してきましたが、1999年に東京都の「平和祈念館」建設計画が凍結となりました。そこで、「記録する会」と財団法人 政治経済研究所は、やむにやまれぬ思いで民間募金を呼びかけ、4000名をこえる方々の協力によって、2002年3月9日、戦禍のもっとも大きかった地に当センターを完成させることができました。用地は一篤志家から無償提供され



河野新さん制作の母子像「戦火の下で」

東京の中・高校生たちが、原爆や空襲の被爆体験に学びながら彫刻のプランを公募し、けんめいに募金を集めて完成させた「世界の子どもの平和像（東京）」



開館要項

開館日時 水曜日～日曜日 12時～午後4時

休館日 月曜日・火曜日

年末年始（12月28日から1月4日）

※3月9日・10日は曜日にかかわらず開館します

協力費 一般 300円

中・高校生 200円

小学生以下 無料

※10名以上の団体の方は、事前にご連絡ください

※学校等の団体の場合は、開館時間外や休館日でもご相談に応じます

※車椅子用エレベーターおよびトイレがあります

※駐車場はありません

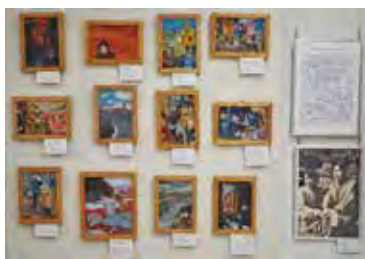
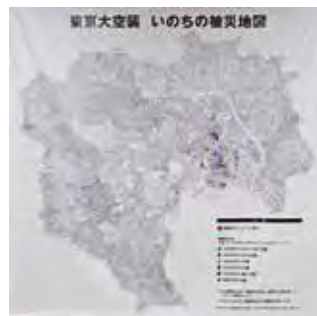
たものです。

2007年3月には、多くの皆さんの熱いご支援により、さらに増築を実現し、展示を充実させて、修学旅行生など若い世代の「学びの場」としての環境が整いました。

特別展示や戦争災害の調査・研究を始めとして、子どもから大人まで、いのちの貴さを基本に、「知っているなら伝えよう、知らないなら学ぼう」の精神で、当センターを大いに活用していただきたいと思います。戦争・空襲の惨禍をふたたび繰り返すまじの決意で、民間人の蒙った戦禍を風化させることなく未来に継承し、平和を願う人たちの交流にも役立ちますようにと、心から願っています。

東京大空襲・戦災資料センター 館長 早乙女勝元

1階の映像・講話室では、映像資料を観たり、団体参観でご要望があれば、体験者のお話をうかがうことができます。また、壁面には空襲を描いた絵画や被災地図、日本各地の空襲写真などを展示して、当時の惨状を伝えています。



左上：日本各地の空襲の写真展示

右上：空襲で亡くなった方の住所と死亡場所をつないだ「東京大空襲いのちの被災地図」

左下：おのざわさんいちさんの空襲体験画の展示です



灯火管制下の暮らしぶりを再現した部屋です



集束焼夷弾の原寸模型。空中で外殻が外れて38本のM69焼夷弾がバラまかれます

2階の展示室では、東京空襲の焼け跡の写真、被災品、体験者の証言映像などで東京空襲の実相を詳しく伝えるとともに、防空や空襲後の諸問題、中国・ゲルニカ・ドイツなど世界の空襲被害についても展示しています。



焼け焦げた子どもの着物

左：高熱で溶けた瓦と皿
右：母に背負われ逃げまどった赤ん坊の帽子とほ乳瓶、手提げかばん



1階受付の前には、早乙女館長の著作のコーナーと、調べ物用の本や子ども向けの本の書架、読書や休憩ができるオープンスペースがあります